

伝える・つなぐ 「木原神楽」

お正月と10月の六殿宮秋季大祭で子ども達が舞う「木原神楽」は今評判です。この神楽の歴史と伝承について、「木原神楽保存会」の平江 透会長に聞きました。

また、11月12日に練習の様子を撮影させていただきました。礼に始まり、刀と鈴を使い熱心に練習。先輩方々より、刀・鈴の扱い方、足の運び、手の動きにきびしい声が飛びます。「ハイ」と子ども達はきびきびと動きます。木原区民みんなが指導者であり応援者です。平成25年正月の奉納が待ち遠しく、楽しみです。

木原神楽のはじまり

木原の神楽は、六殿宮の神事芸能として、約830年前から始められ、神事芸能は、本座と新座により伝承され、神楽は神楽方により伝承された。

戦 国 時 代

六殿宮では、本来、六殿宮独自の神事古楽が伝承されていたが、戦国時代に神領が没収され神社の勢力が衰微し、神主家も能師も神楽方も廃絶同様の状況の中、六殿宮宮司は、農業と神主として平江家（現在は榊田家）によって伝承されてきた。また、神楽方は平江・荒木・東野の衆が選ばれて伝承されてきたが、古来の六殿宮独特の神事古楽は絶えて、熊本地方に広く伝えられていた肥後神楽12座が伝承されるようになった。

中 断

昭和の戦時により、神楽方の兵役や戦死により神楽は中断された。

復 活

昭和47年、平江盛男氏の発起によって、笛・太鼓・舞の経験者である荒木義高氏、平江正一氏、平江正氏、平江七郎氏、荒木行春氏の6名で神楽が復活した。

木原神楽保存会立ち上げ

昭和47年、発起人たちは、木原神楽保存会を立ち上げ、伝統芸能の伝承と青少年の健全育成・後継者の育成として、小学生、中学生を募集した。

伝 承

昭和47年当時を1期生として、2期生、3期生と伝承。現在は小学4年生3名、3年生3名、2年生1名の7名が6期生として神楽の伝承に励んでいる。冬場は月1回の練習であったが、本年の夏休みより、六殿宮秋季大祭にかけては毎週1回、その後は正月の初奉納に向け月2回の練習を行っている。



今年 正月の奉納



指導者はきびしく、やさしく見守っています



正座は当たり前



先輩の指導で

小岩瀬子ども会の活動 「からいも掘り」

6月3日に植えた「からいも」は地域の方の応援もあり、りっぱな「からいも」に成長。11月10日に、スコップ、移植ゴテで芋掘りに挑戦。りっぱな働きぶりでした。



芋掘りも楽しめました

「からいも」は「いきなり団子」に

富合校区社会福祉協議会と児童・民生委員協議会では「一人暮らしの方へお菓子のプレゼント」を実施しています。

11月は21日に、小岩瀬子ども会の「からいも」を使って、食生活改善協議会の指導で「いきなり団子」を作り、75歳以上の一人暮らしの方100人（希望者）に届けました。



からいもが



いきなり団子」に